

2025(令和7)年度 第1回 遺跡調査発表会要旨



発表遺跡 Line up

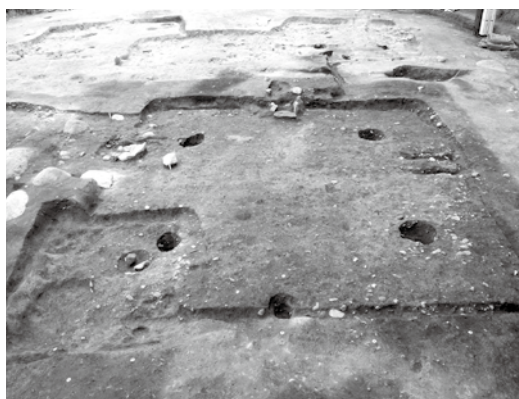
- 発表1 おおつか こふん 大塚古墳 (市川三郷町)
公益財団法人山梨文化財研究所
宮澤 公雄
- 発表2 いしばし やしきあと せんやしき こふんぐん 石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳群 (笛吹市)
山梨県埋蔵文化財センター 内田 祥一
- 発表3 こしまき いせき 腰巻遺跡 (北杜市)
北杜市教育委員会 生山 優実
- 発表4 よしきよじんじやない いせき 義清神社内遺跡 (昭和町)
昭和測量株式会社 高野 高潔



1 大塚古墳
5世紀の帆立貝式古墳
周溝の再発掘



2 石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳群
笛吹市境川地域の
古墳時代終末期の石室を伴う
初の古墳調査



3 腰巻遺跡
古墳時代後期から
平安時代の集落跡



4 義清神社内遺跡
甲斐源氏の源義光の三男、
源義清が晩年、館を構えていたと
言われる場所の発掘

開催日 2025(令和7)年10月11日(土)
会場 帝京大学文化財研究所 大ホール

主催 山梨県考古学協会
山梨県埋蔵文化財センター

おおつかこふん 大塚古墳

公益財団法人山梨文化財研究所 宮澤 公雄

- 1 所在地 西八代郡市川三郷町大塚
- 2 調査主体 市川三郷町教育委員会
- 3 調査期間 令和5年3月4日～4月17日
- 4 調査面積 68㎡
- 5 調査原因 整備事業に伴う発掘調査
- 6 調査担当者 宮澤公雄
- 7 調査の概要

本古墳は、曾根丘陵南端に近い大塚地区の丘陵上に位置し、全長40m、後円部径35mほどの、帆立貝式古墳とされてきました。墳丘には埴輪が巡り、明治期に前方部から鏡、刀剣類が出土したことは知られていましたが、後円部上の主体部の副葬品など、そのほかの内容は不明なままでした。平成5年、前方部上を耕作中に、青銅製鈴付銅器、直刀、小札甲などが発見されたため、翌年三珠町教育委員会により発掘調査が実施されました。

発掘調査の結果、前方部上に古墳の主軸に並行する竪穴式石室が確認され、六鈴鏡、横矧板鋌留短甲、小札甲、鉄鏃、玉類、馬具、胡籙金具などが出土しました。

山梨県内でも希少で豊富な副葬品であることから、平成9年に県指定有形文化財に指定されました。

指定文化財とはなっていますが、正式な調査報告書が刊行されていないことから、市川三郷町教育委員会では、令和5年度から遺物の整理作業ならびに墳丘の形状把握のための発掘調査を行い正式な調査報告書を刊行する事業を進めています。

出土遺物については、図化作業を進めており、現在ほぼ作業は終了しています。

前方部から出土した副葬品から、古墳が造られたのは5世紀後半代ですが、土器などには一段階古いものも認められることから、古墳の築造および後円部への埋葬はそれより遡るものと思われます。

墳丘については、これまで数度にわたる調査が実施され、さまざまな復元案が提示されましたが、周溝の形態など不明な部分が多かったため、周溝部にトレンチを設定し、調査を実施しました。

1号トレンチ

前方部北側（盆地側）にかつて町教育委員会が設定したトレンチを延長するように設定。先の調査で確認できなかった周溝の外側立ち上がり、周堤帯、外側

に溝らしい掘り込みが確認されました。

2号トレンチ

これまで調査が実施されてこなかった前方部南側に設定し、墳丘裾、周溝外側の立ち上がりを確認しました。

2-2号トレンチ

2号トレンチを延長するように設定、溝状遺構の痕跡を確認し、溝内からは多くの円筒埴輪が出土しました。

3号トレンチ

後円部南側において、2号トレンチと並行して設定して調査を実施し、後円部墳丘裾、周溝立ち上がり、外側に溝状遺構を確認できました。

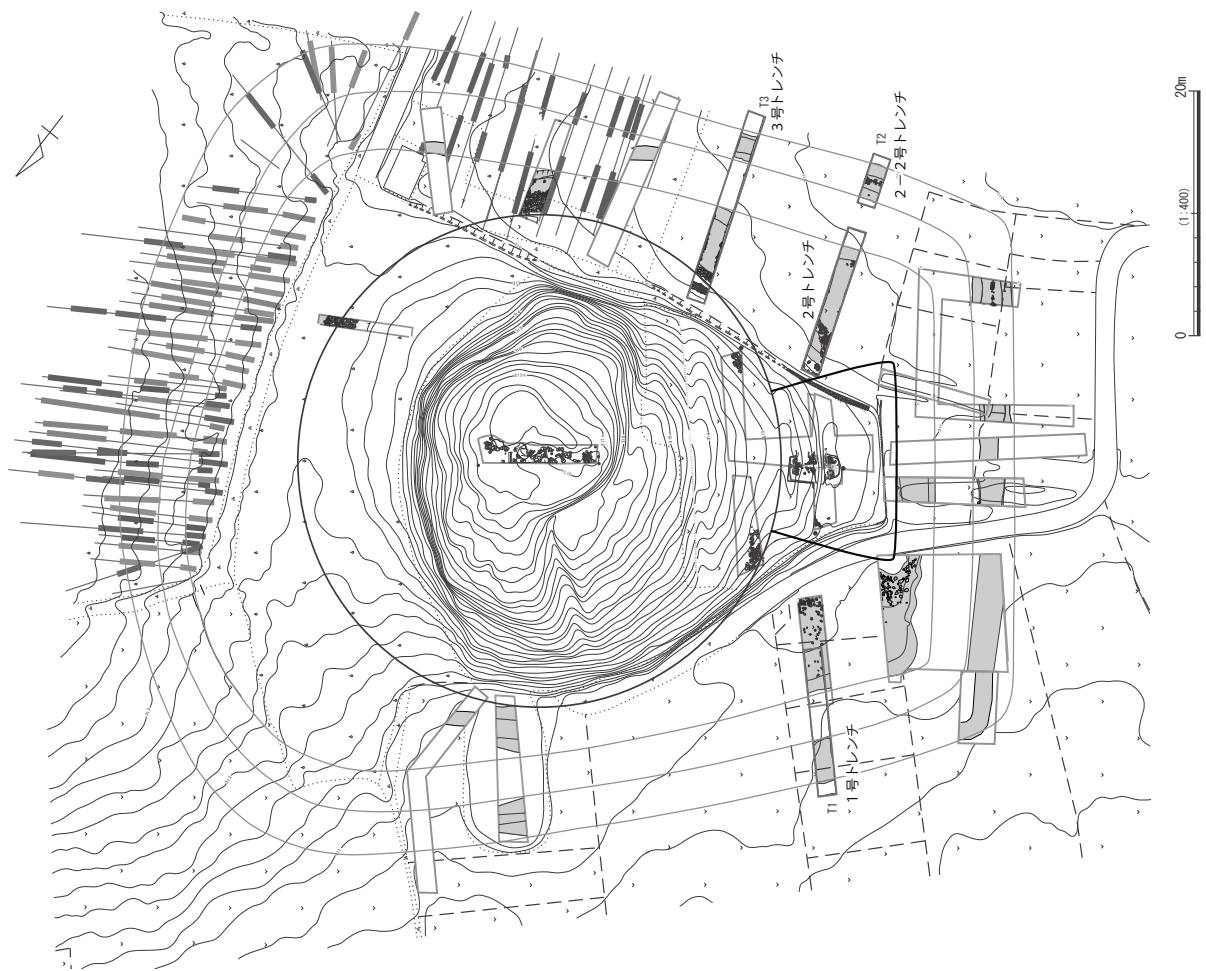
これらの調査結果により、トレンチ内で確認された周溝外側の溝状遺構は、円筒埴輪片が多く出土し、とくに2号トレンチでは、ほぼ完形に復元できる円筒埴輪が3個体も出土しており、古墳に伴う遺構であることが明らかになりました。これらのことから、本墳の周溝は内側が馬蹄形、外側周溝も内側周溝とほぼ同様な形態をとる二重周溝をもつ古墳であることが判明しました。

古墳の東側は現在果樹園となっており、発掘調査を実施することが出来なかったため、ボーリングステッキによる周溝確認調査を実施しました。その結果、内側周溝の外側に一定の幅で落ち込みが確認され、二重周溝が巡ることが明らかとなりました。

これまでの調査成果を勘案すると、全長50m、後円部径40.5m、前方部長11.3mの二重周溝をもつ帆立貝式古墳であることが判明しました。

豊富な副葬品をもち、二重周溝を有する古墳であり、同じく二重周溝をもつ豊富王塚古墳とともに甲府盆地内最有力者層の墳墓であるにもかかわらず、前方後円墳ではなく、帆立貝形を採用しているところに、当時の甲府盆地の政治情勢を読み取ることができるかもしれません。

今後は、出土遺物の詳細な検討とともに、試掘調査で明らかとなった、二重周溝をもつ帆立貝式古墳のあり方などを解明し、来年度刊行の報告書にその成果を掲載できるよう、事業を進めています。



大塚古墳推定復元図



1号トレンチ



2号トレンチ埴輪出土状況



2-2号トレンチ埴輪出土状況



3号トレンチ

いしばししやしきあとせんやしきこふんぐん 石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳群

山梨県埋蔵文化財センター

内田 祥一

- 1 所在地 笛吹市境川町石橋 2322
- 2 調査主体 山梨県埋蔵文化財センター
- 3 調査期間 令和6年10月7日～
令和7年2月28日
- 4 調査面積 約 750㎡
- 5 調査原因 中央新幹線（品川・名古屋間）建設
工事
- 6 調査担当者 内田祥一・江原 東
- 7 調査の概要

（1）遺跡の環境・概要

石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳群は笛吹市境川町石橋地区の境川右岸、境川扇状地の中央付近（扇央）に位置しています。当遺跡はこれまでに本調査は実施されておらず、今回が初の本調査となりました。令和5年に今回工事にかかるエリアの試掘調査を実施したところ、遺跡が分布していることが判明したため、「石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳」として周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されました。

周辺においては当センターによって複数回にわたり本調査が実施されています。当遺跡から東に隣接する毘沙門遺跡では、古墳時代後期及び11世紀の集落跡が発見されています。またやや離れた坊ヶ峰下の熊野神社境内に隣接する下向遺跡からは12世紀の遺物を伴う石積みなどが発見されています。調査ではこれら近隣遺跡で確認された時代の遺構面に加えて、遺跡名にもなっている石橋氏屋敷跡に関連する遺構についても注意を払いながら作業を実施しました。当遺跡の基本的な堆積環境は細砂層と10cmほどの礫を多く含む土石流層からなる互層であり、当地点が古くから何度も被災している状況が確認されました。今回調査ではそれら地層の中において、古墳時代と平安末期から鎌倉時代という2つの時期の人の活動の痕跡が確認されました。

（2）石橋氏屋敷跡

石橋氏屋敷は12世紀後半～13世紀前半に、当地域に存在したと伝わる石橋八郎信継の館とされていますが、これまで館に関わる遺物や遺構は見つかっておらず詳しいことはわかっていません。1面目では、平安時代末期から鎌倉時代（約800年前）の溝状遺構2条、竪穴土坑2基とこれに伴う柱状高台などの土師

器が出土しましたが、屋敷に直接関係する堀や土塁、建物跡のような遺構は残念ながら発見に至りませんでした。

（3）先屋敷古墳群

2面目では、古墳時代終末期（約1,300年前）に築造されたと考えられる古墳2基が確認されました。

1号墳は直径約18.4m（推定）の円墳で今回は古墳南端部分のみの調査でした。前庭部や周溝からは7世紀代の高坏や甕、長頸壺などの須恵器片が多量に出土しました。特に1号墳の前庭部からは葬送儀礼に使用されたと考えられる、口縁がラッパ型に広がる容器の甕が3点出土しました。

2号墳は直径約6.9mの不整楕円形で長さ約3.6m、幅約2.4mの横穴式石室が検出され、石室からは平安時代の坏が人骨片と共に多量に出土しており、同時代に古墳が再利用されたと考えられます。ほかにも石室からは「南」の墨書土器や時期不明の鉄刀や人の歯が出土しました。石室内には古墳築造時に供えられたと考えられる同時代の遺物が残存していると想定し、慎重に掘り下げましたが、副葬品などは発見されず、前庭部で長頸壺を含む須恵器片がわずかに出土したのみでした。

なお、古墳の横穴式石室の直下の地層からは古墳時代後期の坏や甕からなる土器集中地点が確認されており、古墳が造られる以前には集落が存在した可能性も考えられます。

（4）まとめと課題

今回の先屋敷古墳群調査は境川地域の古墳時代終末期では石室を伴う初の調査事例となりました。また、近隣の毘沙門遺跡では当遺跡と同時期の集落跡が確認されており、古墳時代終末期の当地域の集落域と墓域の関係性を検討できる貴重な機会となりました。また、調査区南側では、流れ込みと思われる弥生時代後期の土師器が複数個、集中的に確認されたことから、近隣において同時代の集落跡の存在が推測されます。今後の整理作業等では先屋敷古墳群の規模や広がり、出土鉄刀や人骨・歯の科学的な分析、石室の系譜など多岐にわたる検討が必要となりますが、今回の調査は当地域の古墳時代の歴史的環境を考察するうえで貴重な発見になったといえます。



先屋敷古墳群 全景（古墳時代終末期）（写真中央上が1号墳、左が2号墳）



先屋敷古墳群 1号墳



先屋敷古墳群 2号墳



1号墳 前庭部 検出状況



2号墳 横穴式石室 検出状況



1号墳 前庭部 須恵器甕出土状況（古墳時代終末期）



2号墳 石室内 土師器坏出土状況（平安時代）

こし まき い せき 腰 巻 遺 跡

北杜市教育委員会 生山 優実

- 1 所在地 北杜市須玉町藤田地内
- 2 調査主体 北杜市教育委員会
- 3 調査期間 令和7年5月12日～8月29日
- 4 調査面積 約3,000㎡
- 5 調査原因 県営圃場整備
- 6 調査担当者 生山優実・佐野 隆・廣瀬公明
- 7 調査の概要

(1) 遺跡の立地と調査経緯

腰巻遺跡は塩川右岸の河岸段丘上、標高480～490mに立地する集落遺跡です。東西約260m、南北約550mに縄文時代から平安時代までの遺構が広がっています(写真2)。今回の調査区は遺跡の東端、河岸段丘の東縁に位置します。従来、この場所は周知の埋蔵文化財包蔵地ではありませんでしたが、令和5年度に実施した県営圃場整備に伴う試掘調査において、竪穴住居跡等の遺構を確認したため、遺跡の範囲を拡張しました。

試掘調査では、圃場整備範囲全体(約6,000㎡)に遺構の広がりを確認しましたが、切土造成等により工事の影響を受ける約3,000㎡を対象に本調査し、残りは盛土造成で保存することとしました。

(2) 発見された遺構

発掘調査の結果、竪穴住居跡31軒(古墳時代後期19軒、奈良時代4軒、平安時代8軒)、掘立柱建物跡10棟、土坑・ピット約200基を発見しました(写真1)。北杜市内における同時期の遺跡と比較して遺構密度が非常に濃く、何軒もの住居が重複して見つかりました。

古墳時代後期、奈良時代の竪穴住居跡は一辺が5～6mの方形を呈し、北壁中央にカマドを設け、4本の柱穴と間仕切溝、壁際に周溝を確認しました(写真3)。調査区北側の18号住居跡(古墳時代後期)は、一辺が6～7mにおよぶ大型住居(写真3)で、北壁中央に設けられたカマドも煙道が長くのびる、しっかりとした作りでした。平安時代になると、一辺が4～5mとやや小さくなり、柱穴や間仕切溝は見られず、カマドも東壁に移動します。いずれの遺構も現在に至るまでの土地利用による削平を受けており出土遺物は多

くありませんでしたが、当時の人々が使用していたと考えられる土師器(坏、皿、甕、甔など)や金属製品のほか、特別な食事・祭事用の「高坏」、糸を紡ぐ道具である「紡錘車」、銅製品等が出土しました(写真5)。

(3) 腰巻遺跡の集落

腰巻遺跡ではこれまでに、調査区の西側に隣接する、しおかわ福寿の里(平成6年調査)、須玉町デイサービスセンター(平成8年調査)、塩川病院増設(平成15年調査)などの建設事に伴い、合計約11,000㎡で発掘調査が実施されています。調査区全体から古墳時代後期33軒、奈良時代18軒、平安時代11軒の竪穴住居跡などが発見されており、今回の調査においても同時期の遺構が見つかることから、同一の集落と判断してよいと考えられます。

今回の調査区は、これまでの調査区より一段低い段丘面に位置し、住居を建てることのできる平坦面は狭く、東側は塩川が形成した比高差10m以上の段丘崖となるため、集落を営むには不向きな地形です。そうした土地に、古墳時代後期から平安時代にいたるまで、この土地を好むように幾度となく建て替えを繰り返した様子が、遺構の重複状況からうかがえました。

(4) 奈良・平安時代の穂足地区

腰巻遺跡が所在する穂足地区は近年、県営圃場整備事業に伴う多くの大規模発掘調査によって、新たな奈良・平安時代の集落跡の発見が相次いでいます。特に腰巻遺跡の北西約700mで発見された一道下遺跡は、130軒を超える竪穴住居跡や大形柱穴をもつ掘立柱建物跡などとともに、焼印や分銅などの特殊な遺物が出土し、一般集落とは隔絶した集落の様相を示しています。こうした遺跡が突如この地域に出現した歴史的背景は大変興味深く、前後の時期を含めた、地域社会の動向に大きく関与、影響を与えていると考えられています。

腰巻遺跡をはじめ、当該期の一道下遺跡を中心とする穂足地区の様子を明らかにすることは、北杜市域における歴史を検討するうえで不可欠であり、今後の発掘調査成果もあわせて注視する必要があります。



写真1 調査区全景



写真2 調査区遠景（南東から）



写真3 18号住居跡（古墳時代後期）



写真4 8号住居跡（カマド）



写真5 遺物出土状況（9号住居跡）

義清神社内遺跡

昭和測量株式会社

高野 高潔

- 1 所在地 中巨摩郡昭和町西条
- 2 調査主体 昭和町教育委員会
- 3 調査期間 令和7年7月1日～8月1日
- 4 調査面積 約87㎡
- 5 調査原因 拝殿建築
- 6 調査担当者 田代 孝・俵 有輝・高野高潔
- 7 調査の概要

(1) 遺跡の立地・環境

義清神社内遺跡は、中巨摩郡昭和町西条の義清神社境内に所在します。西条の地は甲府盆地の中央部にあり、甲斐と駿河を結ぶ古道河内路(みのぶ道)が通っていました。また、釜無川の扇状地中央部でもあり、その自然堤防上に営まれた中郡筋の大村としても知られていました。義清神社はゆるい坂の上に建立され、水害の影響を受けにくい、要衝に立地していると言えます。緑豊かな境内は、水に恵まれた穀倉地帯から都市化が進んだ現在、憩いの場として親しまれています。

(2) 調査の概要

義清神社は、甲斐源氏の祖源義清が西条に住み、義清逝去の久安年間(1145～1151年)に建立されたと伝えられています。また義清の墳墓は社の西にあるとも伝わります。『甲斐国志』(文化十一年(1814))の義清明神の項には、社地が縦三十八歩(約69m)、横廿五歩(約45m)あり、祭礼では通し矢などの神事が行われること、寛政六年(1794)の六百五十年忌の神事が盛大に行われたことなども記されています。また、『社記・寺記』(慶応四年(1868年))には、本殿竪七尺横五尺檜皮葺 拝殿竪三間半横二間茅葺 石鳥居高サ一丈七寸五分 末社二社 射手小屋竪七間横二間半茅葺 などが記され、往時の状況がうかがえます。

1985年には昭和町教育委員会による義清神社内遺跡の学術的な発掘調査が行われました。調査は境内に17箇所のトレンチを設定して行われ、平安時代末期以降の土師質土器の破片と、敷石状の遺構が検出されました。また、現存した土塁状遺構の構築状況が確認されました。小ピットも検出されましたが、掘立柱建物址とは断定できませんでした。今回の発掘では拝殿の建て替えに伴い、その真下を調査しました。

(3) 調査成果

現在の本社には本殿と拝殿があり、その間に渡り廊下が設けられていました。解体された拝殿の下からは柱を支えていた礎石が検出されました。渡り廊下の下からは三段の石段と敷石の参道が検出されました。礎石の上面には柱間の墨出しが残るものもありました。拝殿は桁行3間半(約6.3m)、梁行2間半(約4.5m)でした。桁行の礎石は1間(約1.8m)-1間半(約2.7m)-1間の間隔で4つの石が配置され、梁行の礎石は5尺(約1.5m)の間隔で4つの石が配置されていました。礎石が据えられた地盤は砂質の土壌で、発掘調査の結果、地山の微地形に応じて2層から3層の土層で盛土され、基壇状に造成されていることが分かりました。盛土層の中からはカワラケの破片が多数出土しました。また少量ですが古銭や瓦片、陶器片なども出土し、地盤が江戸時代に造成されていたことが分かりました。銭貨に注目すると、表土層付近では江戸時代の寛永通宝、大正時代の1銭硬貨、昭和51年の100円玉など時代を通した通貨が出土しています。これは参拝の際に投げられた賽銭と思われます。これに対し、拝殿の礎石下の盛土層から出土したものは、北宋銭や寛永通宝という江戸時代に流通した古銭だけでした。こちらは地鎮の意味合いで地盤造成時に埋納されたものかもしれません。この様に、銭貨の出土状況からも、拝殿の地盤部分は江戸時代に造成され、現在に至るものであったと考えられます。また、盛土層中からは平安時代末の土師器片も少量出土しました。

(4) まとめと課題

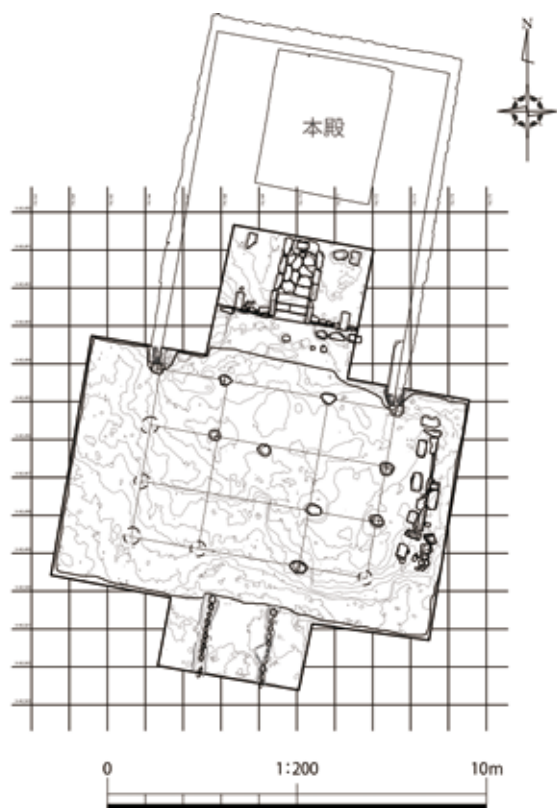
今回の調査では、拝殿の建て替えに伴い、拝殿の下を発掘調査するという貴重な機会を得ました。そして、拝殿の地盤は江戸時代に造成しており、その盛土層の中にはカワラケの破片が多く含まれていたことが分かりました。また、前回の調査と同様に平安時代末の土師器が出土することから、当地域の小高い自然堤防上には当時の集落があったと考えられます。今回の調査では平安時代末に関して詳しく知ることはできませんでしたが、今後は微地形を考慮しながら周辺の調査を行い、検討して行く必要があると思います。



義清神社と周辺の環境（写真上は北西方向）



義清神社と義清塚（写真上は西方向）



調査区全体図



拝殿下調査前状況



拝殿下盛土掘削状況



拝殿下カワラケ出土状況



本殿前敷石検出状況

PAPUA NEW GUINEA JOMON

The 42nd 特別展

2025 — 9.27^{SAT} — 12.7^{SUN} —
OPEN 9:00-17:00

縄文文化の謎を考える

—パプアニューギニアの民族誌—

WASEDA University 山梨県立考古博物館
早稲田大学 Yamanashi Prefectural Museum of Archaeology

国・パプアニューギニア 外交関係樹立50周年記念

2025 (令和7) 年度 第1回
遺跡調査発表会要旨

発行日 2025年10月11日(土)
発行所 山梨県埋蔵文化財センター TEL 055-266-3016
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923
<https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>
山梨県考古学協会 TEL 055-263-6441
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566
帝京大学文化財研究所内
やまなしのこうこがく <https://sankoukyou1979.wordpress.com/>
印刷所 峡南堂印刷所 TEL 055-235-2528